



「広島ハーネスの会」  
事務局の水羽さん

また、盲導犬が行動しやすい社会環境を整備するのも大切な活動。毎年一回、広島市からの委託でレ

- 財団法人北海道盲導犬協会(札幌市)
- 財団法人栃木盲導犬センター(宇都宮市)
- 財団法人日本盲導犬協会(東京都)
- 財団法人アイメイト協会(東京都)
- 財団法人中部盲導犬協会(名古屋市)
- 社会福祉法人日本ライトハウス(大阪市)
- 財団法人関西盲導犬協会(京都市)
- 財団法人福岡盲導犬協会(福岡市)
- 社団法人兵庫県盲導犬協会(神戸市)

### 会員、協力ボランティアを募集中

Information  
広島ハーネスの会 事務局  
(会長 藤井聰尚)  
中区八丁堀7-11 広島YMCA内  
TEL・FAX 082-221-8275  
受付時間／毎週火・木曜日  
午前11時～午後3時

ストラントやホテル、スーパーなどを対象に盲導犬啓発研修会を開き、盲導犬使用者の講演会を開催しています。その後、盲導犬使用者への援助活動や、年を取り役目を終えた犬を引き取ってくれる里親探しなども行っています。

### 知つてもらうことから

盲導犬は最近知られてきたとはいっても、まだ十分に知らない人が多いのも事実です。また、盲導犬をよく知らないがために、使用に二の足を踏む視覚障害者もいます。「ハーネスの会」は、盲導犬を安定供給できる体制づくりを目指しています。

**二人の出会い**  
ブライムスくんは、今年11月に9歳の誕生日を迎える、盲導犬のラブドードルレトリバーです。安芸区に住む北崎さんと出会ったのは平成8年(1996年)、1歳3ヶ月の時。福岡盲導犬協会で1カ月の合宿訓練を経て、北崎さんが使用者となりました。

### ブライムスくんが来てから

北崎さんは、平成2年(1990年)に視力を失つてしまふまでは、白杖で歩いていました。「白杖では相当集中しないと、目的的にたどり着くことは難しいです。でも、ブライムスのおかげで、歌いながらの散歩ができるようになりました」。しかも、白杖で45分だった道がブライムスなら12分と、スピード提高了。不思議と、話しかけてくれる人も増えたそうです。「盲導犬もハーネスを外せば、utt。仕事の時間より、ペットの時間が長い」と、北崎さん。でも、ひとたびハーネスを着けると、キャラリと仕事モードです。

た希望者に連絡を取り、参加者7人の小さな会を開きました。

なぜ広島には盲導犬がいなかったのでしょうか。訓練を終えた犬は、地方自治体の委託事業や基金を設けた民間企業などが受け皿となることがほとんど。つまり、個人的に盲導犬を使用を希望しても、難しいのが実情でした。当時、広島では行政の取り組みもなく、企業やボランティア団体の援助活動も皆無に等しく、県内の視覚障害者は盲導犬使用を希望してもかなわなかつたようです。

集まったメンバーから、「盲導犬を広島に呼ぶためのボランティアグループを作ろう!」という声が自然に上がり、「ハーネスの会」発足へと進んでいきました。

### 盲導犬がいる社会のために

「ハーネスの会」は、視覚障害者に盲導犬を提供できるよう、資金集めをしています。盲導犬の貸与には、1頭約180万円の資金が必要です。これらの資金を得るために、企業や団体へ寄付をお願いしたり、スーパー・コンビニ、病院などに募金箱を設置させてもうたりします。



広島にやってきた盲導犬第一号「ベリー」と使用者の清水和行さん

### 補助犬の実態

昨年10月1日、身体障害者補助犬法が施行され、公共交通機関や公共施設において補助犬の同伴を拒んではいけなくなりました。今年10月1日から、その対象は飲食店、商業施設、宿泊施設といった所にも拡大されます。補助犬とは、介助犬、聴導犬、盲導犬のこと。介助犬は、手や足の不自由な人のために物を拾い上げるなど動

知っていますか？ 身体障害者補助犬法

昨年10月1日、身体障害者補助犬法が施行されました。今年10月からは、レストランやホテル、デパートなどでも、補助犬の受け入れが義務づけられることになりました。

作を助けます。聴導犬は、耳の不自由な人の代わりとなつて電話やブザーなどを聞き分けます。盲導犬は、目の不自由な人の目となつて歩行の安全を守ります。

全国では、927頭の盲導犬が実働しています。介助犬は37頭、聴導犬は15頭という少なさです(平成15年6月30日現在)。これまで、補助犬は法的な位置付けをされておらず、介助犬

は、育てる施設が少ないためです。国家公安委員会(警察庁)認可の訓練センターを有する協会は、全国に9カ所で、中四国地方にはありません。県内には30頭、市内には9頭の盲導犬がいます。

盲導犬に至つては、ペット同様に扱われることも少なくありませんでした。

### 広島の補助犬は？

盲導犬は、求めている人の数に対しおこり、育てる施設が少ないためです。その理由の一つは、育てる施設が少ないためです。

全国でも数の少ない介助犬、聴導犬などは、県市とも届出は0頭です。広島市は今年度、補助犬の育成貸与事業に200万円の予算を初めてつけました。

## 盲導犬とあゆむまちづくりを 広島ハーネスの会



始まりは小さな集まりから

「広島ハーネスの会」は、広島県内の視覚障害者の自立を促進するために、盲導犬普及に務めるボランティア団体です。発足は平成元年(1989年)2月。人と犬とをつなぐハーネス(盲導犬用の胴輪にハンドルがついた器具)のように、地域の中で視覚障害者とのきずなを深めていきたいという願いを込めたネーミングです。

街で補助犬に出会つたら  
①使用者に断りなしに、呼んだり、なでたりしないでください。  
②お菓子や食べ物を絶対にやらないでください。

③補助犬は特別な訓練を受けています。ほえたり、かんだりすることはできません。犬が苦手な方も怖がらず、そつと見守つて下さい。  
④使用者が道で判断に迷つているとき、危険な場所を通行する時は、一声掛けてください。

## ハーネスの会会員 ブライムスくん&北崎美枝子さん



盲導犬を知つてもらうために

北崎さんは、お姉さんとその友人が運営するボランティア団体「エール」の会員でもあり、積極的に講演活動をしています。冬場は大忙しで、毎週のように講演へ出掛けます。その活動は、県内にとどまりません。知らない土地へ行くのは、ブライムスくんも北崎さんも、やはり疲れます。「やはり盲導犬がその地域にいるかないかで、その地域での対応はとても違います」。広島市内は大抵大丈夫ですが、生魚を扱うお店などでは気兼ねするそうです。でも、時々もらいうれましのテープや手紙が、北崎さんの原動力になるとのことです。

ブライムスくんとなら、安心のお散歩



# 盲導犬を応援する 広島の有志の会

## ラブドールとの出会い

広島文化短期大学の古矢千雪教授が主宰する「盲導犬を応援する有志の会」は、平成4年（1992年）に発足しました。大好きな古矢さんは以前、黒のラブラドールレトリバーを飼っていました。そこで、新聞を取りに行くなど、ちょっととしたお手伝いもしてくれていたそうです。

## 広島にやつて来た盲導犬

古矢さんが盲導犬を意識したのは、昭和57年（1982年）に盲導犬サープが事故に遭ったとき。その後、盲導犬を連れて全国行脚した人が、広島に立ち寄られたことがあります。そのころ、広島はパリアフリーの街とは言い難いです。



く、「こんな街で大丈夫だろうか」と気遣う古矢さんの不安は的中。

「お店からは閉め出され、タクシーには乗車拒否され、とても不自由な街だった」と、感想を残されました。恥ずかしさでいっぱいになつた古矢さんは、「胸

を張つて盲導犬を呼べる街にしたい」と思いました。そこで、寄付金を集め、広島に盲導犬を呼ぼうと考えたのです。

## 広がるネットワーク

毎年7月に、手作りの募金箱を持つ募金集めや設置のお願いに回ります。古矢さん自らが、人が集うお店などに置かせてもらいうよう交渉します。会は、そんな姿に賛同した人たちで構成されています。友人、知人から広がつたネットワークは、だんだんと大きくなっています。

平成4年7月～15年7月まで、募金額は約150万円に達しております。毎年、関西と中部



2月3日から7月末の期間、57万7194円もの募金がありました



ザ・クラークシーゲル  
中区鉄砲町8-6  
TEL082-228-7828

盲導犬の写真と共に募金箱はレジ横に、置かれています

の盲導犬協会に贈られ、盲導犬育成のために使われています。市内15カ所に会場で「ふれあいキャンペーン」を行い、100人も参加でございました。

## そぞう広島店 盲導犬とともにあゆめる店内に

**社員の意見から始まった社会貢献**

（株）そぞう広島店は、身体障害者補助犬法への対応が迅速な店舗のひとつ。売場や商品案内をするコンシェルジュが、盲導犬へ対応します。また、補助犬への対応の仕方が書かれた「補助犬ハンズブック」を全従業員に配布し、さら

に従業員を対象とした募金「ワン！」イン俱乐部」を設立。店内16カ所に募金箱を設置するなど、その取り組みは徹底しています。これらは今年2月から、社員の意見で始まりました。

正面玄関から店内に入るとすぐに、実物犬の盲導犬像が目に入ります。その下の募金箱に集まつた寄付金は、日本ライトハウスや兵庫、関西の盲導犬についての知識が広まってきたと感

じます。「ふれあいキャンペーン」も、年に数回開くことを目標にしています。

藤和之さんは話します。「イベントをと、顧客サービス担当トレーナーの大犬についての知識が広まってきたと感じます。」「だんだんと、盲導犬についての知識が広まってきたと感じます。」「ふれあいキャンペーン」も、年に数回開くことを目標にしています。

6月1日から、「盲導犬クイールの生」というテレビドラマが放映されました。放映開始後、店頭募金は1～2割増えたそうです。「だんだんと、盲導犬に対する施設も少ない補助犬に対し、どのようにやれば意識を上げられるかを考え、そこなりの活動支援していきます」。

Information  
株式会社そぞう広島店  
中区基町6-27  
TEL 082-512-7005



すべての出入り口に張ってあります

犬協会に贈られます。4月には日本ライトハウスから講師を招いて、特設会場で「ふれあいキャンペーン」を行い、100人も参加でございました。



## 一画家の作品を心ゆくまで堪能できる 大野ギャラリー

（株）大野石油店が所蔵する絵画を一般の方にも楽しんでもらおうと、平成10年から開設しています。展示は、

昭和59年に文化勲章を受けた洋画家で、気品ある女性像などを描いたことで知られる小磯良平の作品のみ。

ギャラリー内は6部屋に分かれ、油絵や素描、銅版画や石版画など、120点もの作品を展示。人気の作品は、「D娘の像」や「描く婦人」などです。

（株）イズミの運営する泉美術館は、エクセルビル5階にあり、懐ただしい日常から離れられる癒しの空間です。平成9年に開設され、館内は「憩いのひととき」というコンセプトのもと、ロビーを無料開放しています。エントランスホールの右手にある庭園は、吹き抜けの天井にちなんで「睡蓮」は常設展の見所です。不定期で企画展も開催。11月26日までは、「秋季展」を開催中。福田平八郎の「秋」など、秋にちなんだ名画をご覧ください。11月28日からは、「みづのきの絵画」を開催します。



大野ギャラリー  
開館時間／祝日を除く水曜のみ開館  
午前10時～午後4時  
入館料／無料  
中区西白島町22-15 TEL082-221-9107

## 美術館で過ごす芸術の秋

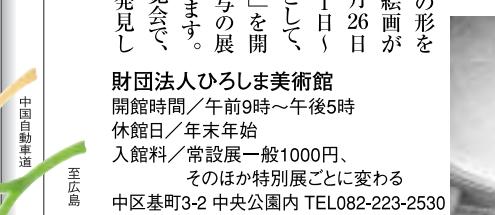
広島のあちらこちらに、企業が社会貢献として運営している美術館があります。静かで穏やかな空間に、心から癒されること間違いなし。今年の秋は、美術館でゆったりとアートな時間を過ごしてみてはいかが?

## 郊外で見つけた！ 芸術の秋 ウッドワン美術館

（株）ウッドワンの所蔵作品約800点を展示するウッドワン美術館は、平成8年に開館。近代日本絵画、マイセン磁器、アルヌーヴォーのガラス作品、中国清代の陶磁器、薩摩焼という個性あふれる5つのジャンルに分かれています。岸田劉生の「麗子像」、ゴッホの「農婦」は有名です。近代日本絵画は3ヵ月毎に一度入れ替えているので、展示期間は問い合わせが必要です。そのほかのジャンルは常設で、中でもマイセン磁器は別館を設けるほどコレクションが充実しています。9月30日～12月14日には「四季を彩る絵画展」を開催、重要な文化財である伝周文の作品も



ひろしま美術館  
ひろしま美術館は、（株）広島銀行が創業百周年記念として創立した美術館で、昭和53年に開館しました。常設展不場は原爆ドームの形をモチーフにしており、印象派を中心とした絵画が並びます。特設展示は、10月26日まで「鉄道と絵画」展、11月1日～12月14日までは25周年記念として、「まるごとひろしま美術館展」を開催。公募した所蔵作品の模写の展示、ワークショップなどを行います。いつもとは違った切り口の展覧会で、ひろしま美術館の魅力を再発見してみませんか。



財団法人ひろしま美術館  
開館時間／午前9時～午後5時  
休館日／年末年始  
入館料／常設展一般1000円、そのほか特別展ごとに変わる  
中区基町3-2 中央公園内 TEL082-223-2530

## ひろしまの会社の おもしろPスポット

市民の「エンジョイ」を応援してくれる、おもしろスポットをピックアップ! 今回は、企業が取り組む広島のアート・スポット、「美術館」の特集です。



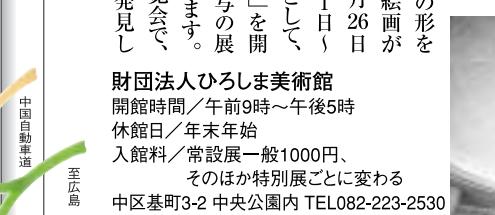
喧騒の中に憩いの場  
泉美術館  
（株）イズミの運営する泉美術館は、エクセルビル5階にあり、懐ただしい日常から離れられる癒しの空間です。平成9年に開設され、館内は「憩いのひととき」というコンセプトのもと、ロビーを無料開放しています。エントランスホールの右手にある庭園は、吹き抜けの天井にちなんで「睡蓮」は常設展の見所です。不定期で企画展も開催。11月26日までは、「秋季展」を開催中。福田平八郎の「秋」など、秋にちなんだ名画をご覧ください。11月28日からは、「みづのきの絵画」を開催します。



新井口駅  
商工センター入口駅  
アルパーク  
天満屋  
サンプラザ  
泉美術館（エクセルビル）  
沼津道踏  
草津道踏



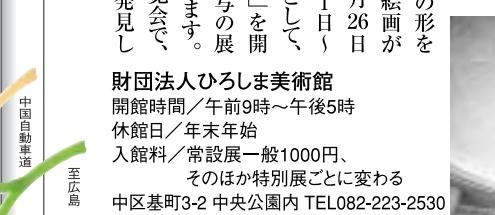
ひろしま美術館  
ひろしま美術館は、（株）広島銀行が創業百周年記念として創立した美術館で、昭和53年に開館しました。常設展不場は原爆ドームの形をモチーフにしており、印象派を中心とした絵画が並びます。特設展示は、10月26日まで「鉄道と絵画」展、11月1日～12月14日までは25周年記念として、「まるごとひろしま美術館展」を開催。公募した所蔵作品の模写の展示、ワークショップなどを行います。いつもとは違った切り口の展覧会で、ひろしま美術館の魅力を再発見してみませんか。



財団法人ひろしま美術館  
開館時間／午前9時～午後5時  
休館日／年末年始  
入館料／常設展一般1000円、そのほか特別展ごとに変わる  
中区基町3-2 中央公園内 TEL082-223-2530



ひろしま美術館  
ひろしま美術館は、（株）広島銀行が創業百周年記念として創立した美術館で、昭和53年に開館しました。常設展不場は原爆ドームの形をモチーフにしており、印象派を中心とした絵画が並びます。特設展示は、10月26日まで「鉄道と絵画」展、11月1日～12月14日までは25周年記念として、「まるごとひろしま美術館展」を開催。公募した所蔵作品の模写の展示、ワークショップなどを行います。いつもとは違った切り口の展覧会で、ひろしま美術館の魅力を再発見してみませんか。



財団法人ひろしま美術館  
開館時間／午前9時～午後5時  
休館日／年末年始  
入館料／常設展一般1000円、そのほか特別展ごとに変わる  
中区基町3-2 中央公園内 TEL082-223-2530

# ひろしまの会社の おもしろ Pレポート REPORT

あなたの知らないところで、社会貢献活動を行っている広島の企業はたくさんあります。この「一ナ」では、そんな企業の取り組みを紹介します。さて、今回はどうな企業が登場するのでしょうか？

## 障害者雇用と公益信託創設 桐原容器工業所

株式会社 桐原容器工業所

中区舟入南4-1-1

TEL 082-231-9431

FAX 082-292-2553

明治33年(1900年)創立、資本金1千万円、従業員数69人(平成15年9月18日現在)。取締役社長は桐原秀雄氏。

**祖父、父の思いを受け継いで**

中区舟入南にある桐原容器工業所では、現在、4人の障害者を雇用しています。従業員が69人ですから、障害者雇用率は約6%で、法定雇用率1.8%を大きく上回っています。同社がこのような活動に積極的になつたのは、桐原秀雄社長の祖父にあたる創業者桐原秀太郎さんの影響が大きいことがあります。

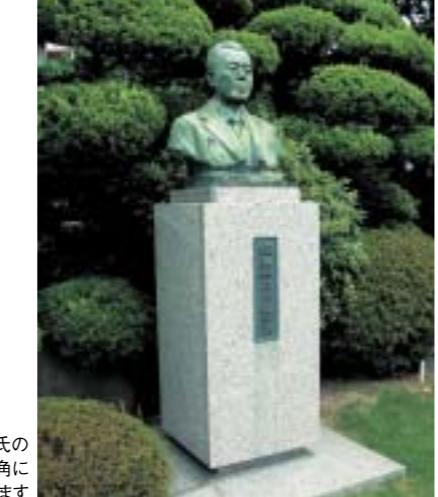
秀太郎さんは24歳の時、職場での事故で片足を失っています。それから、困難を抱えながらも働き続け、明治33のことです。

年(1900年)、障害を抱えても働くセメント樽の製造を行う同社を立ち上げました。そんな秀太郎さんの経験は、昭和20年代後半、従業員の子どもである双子の障害者を採用することにつながります。当時、通っていた知的障害者施設が、東高須から西条へ移転することになり、通えなくなってしまったためです。そこには、学校を卒業した障害者の受け皿となるような施設や雇用は少なく、同社はいち早く障害者雇用に取り組んだ会社と言えるでしょう。

Pレポートの“P”は、Philanthropy(フィランソロピー・企業などが地域活動に参加すること)、Peace(ピース・広島のアイデンティティーとしての平和)、Public(パブリック・公共に開かれている)などの“P”をイメージしています。



作業中の工員を見守る桐原秀雄社長



創業者、桐原秀太郎氏の銅像が会社の一角に建てられています

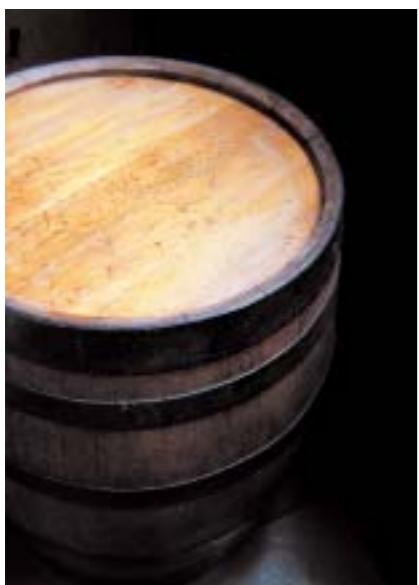
同社の工場内にあるレンガの部分は、被爆建物に認定されています

また、秀雄社長の父の桐原真次郎さんが社長の時、社宅を「もみじ福祉会」に作業所として提供していた時期もありました。

### 創業者の名を冠した公益信託

「元来日本人には、自分の経験を生かして困った人を助ける精神がある」と桐原秀雄さん。同社は昭和53年(1978年)から、業績に応じて、東区光町にある心身障害者センターに、寄付を行っていました。しかし、業績に振り回されることなく毎年安定して寄付活動を行うために、公益信託による基金を設けることにしました。それが「桐原秀太郎記念教育振興基金」です。当初は2千万円だった基金額も、現在は4千万円を超えるまでになっています。

基金の運用益は県教育委員会を通して、県内7つの養護学校と、市内の小・中・高等学校の養護学級に寄付しています。最初のころは、社長自ら生徒たちと一緒に、寄贈する物品を見て回っていました。これまで生徒の希望を募つて贈つたものは、ビデオカメラやパソコン、太鼓など、バラエティに富んでいました。



戦時中、セメント樽は火薬入れにもなりました

### 桐原の思いを

平成14年(2002年)、双子の障害者は退職となりました。しかし、現在働いている4人を見ても分かるように、積極的な障害者雇用は、桐原容器工業所に脈々と受け継がれています。同社がその方針を変えないのも、日本人らしさからなのかもしれません。

### 公益信託とは?

民間公益活動のために自分の財産を提供しようとする個人、利益の一部を社会に還元したいという企業が誕生、その後幅広い分野で活用されている。今年3月末には、信託件数572件、信託財産残高711億円。助成先への給付は、累計助成先数8万4千件、給付額296億円に上る。広島市まちづくり活動支援基金(ふむふむ)もその一つ。





アストラムライン「大原駅」周辺に広がる、奥畠や伴といった豊かな田園風景。そんな地域にあるのが、沼田公民館です。今年2月より、その恵まれた自然環境を生かした活動を行って、ボランティアグループ「おくはた電波隊」が、公民館の呼び掛けにより結成されました。また、近隣にひろしま西風新都ができ、小さな子どもたちを持つ家庭が増えたことから、人と自然のつながりを大切にしようという橋渡しの拠点にもなっています。そんな沼田公民館の心温まるさまざまな取り組みをご紹介します。

## 自然と共にあゆむ 「おくはた分校」

学校が、市内から車でわずか25分ほどこの地区で体験できます。



初めての採卵体験にドキドキ

沼田公民館は、今年4月、「自然体験学習・おくはた分校」を開校しました。これは、農業や自然体験を通して、農業や自然体験を通じて、環境への関心や親子の絆を深めることを目的としています。昭和47年(1972年)に廃校になった、旧伴小学校奥畠分校を拠点に、裏手の川とハウスクを利用したホタルの幼虫の飼育・観察、タケノコ掘りや畑作りなど、月1回の授業に、市内中心部などから76人の親子が生徒として通っています。そんな分校をサポートするのが、地域住民を中心とした31人のボランティア団体「おくはた電波隊」。今年6月には、公益信託広島市まちづくり活動支援基金HmFの助成も受けるなど、この分校のプログラムを熱心に支えています。

沼田公民館は、古くからの地元の人々と移り住んできた人々をつなぐ、育児支援にも力を入れています。育児ボランティアを養成する「スキルアップ講座」や、「おはなしボランティア養成講座」などが公民館主催で設けられ、そこから4つのボランティアグループに分かれ、「子育て支援の木」が生まれました。「できるだけできるだけ」を合言葉にしたその活動は、沼田地区安佐南区保健センターの協力のもと、子どもたちと保護者の笑顔あふれるオープンスペースとして育っています。これから本格スタートする読み聞かせの会「あのねの会」をはじめ、どのグループも現在サポーターを募集中です。

## 子育て支援の木

読み聞かせ・あのねの会



子育て広場ポンボキッズ

- 開催日時／未定
- 開始時期／10月から開講する講座(全5回)を修了後、オープンスペースを開催する予定
- おかるさんの広場(第2子、0・1歳)
- 開始時期／毎月第3水曜日午前10時～
- 目的・内容／妊娠の集いの場

**沼田たまごクラブ(妊娠)**

育児ボランティアを養成する「スキルアップ講座」や、「おはなしボランティア養成講座」などが公民館主催で設けられ、そこから4つのボランティアグループに分かれ、「子育て支援の木」が生まれました。「できるだけできるだけ」を合言葉にしたその活動は、沼田地区安佐南区保健センターの協力のもと、子どもたちと保護者の笑顔あふれるオープンスペースとして育っています。これから本格スタートする読み聞かせの会「あのねの会」をはじめ、どのグループも現在サポーターを募集中です。

- 代表者コメント／吉田里見さん(47)  
相談先も少なく、育児書がバイブルになりがちな第子の子育て・子どもの病気やけがが一番多い時期の、お母さんの不安を和らげる手助けができるたらと思います。子どもたちの成長と一緒に喜べるので、来てください。  
● スタッフ／13人
- 目的・内容／手遊びや簡単にできる遊びを通してお母さんの交流の場、保健士の話などを通したお母さんの交流の場
- 開催日時／毎月1回、約1時間半
- 開始時期／平成12年(2000年)6月
- 目的・内容／リトミックや工作・お絵描き、悩みを持つお母さんの話を聞きアドバイスを交換し合う「母親タイム」など
- スタッフ／25人、20代～60代
- 代表者コメント／矢野文恵さん(35)  
子どもが小さいころ2年間育児サークルに参加し、そこでできた横のつながりに助けられた経験を、ユーフェースのお母さん方にも伝えたいです。今春から男性も加わりました。専門的な資格はなくともそれぞれの得意分野を生かし、全員が楽しみながらのサポートをモットーにしています。
- 開催日時／第1回～10月17日(金)
- 開始時期／平成15年(2003年)6月
- 目的・内容／絵本の読み聞かせ、作家の紹介、オススメの本のプリント作りなど
- スタッフ／保育士経験者を含む約20人、20代～60代
- 代表者コメント／青木淑恵さん(41)  
本が大好きで、子どもたちにこんな世界があるんだよということを伝えたいですね。子ども図書館などでボランティアをしていました。良い本に出合った時の子どもたちの姿にいつも感動を覚えています。

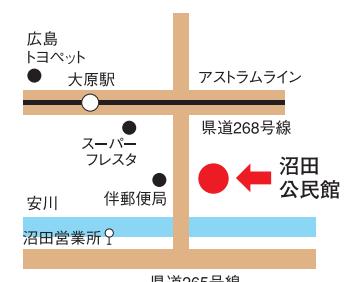
**訪れるたびに感じる心の温もり**

**有馬ハツエさん(85)**  
夫がさきちょうどめんないで、お世話になつてゐる公民館の周りに草が生えていると見掛けなくなり心配になりました。草は遠慮せんと生えるから大変だけど、きれいでいいね。

**大橋監民さん(61)**  
昨年、草取りをする有馬さんの姿を引きました。沼田公民館は、そこに住み、集う皆さんのやさしい温もりにいつも包まれているようです。



おくはた電波隊  
池崎博之さん(73歳)



安佐南区沼田町伴5697番地  
TEL・FAX 082-848-0242  
URL <http://www.hitomachi.city.hiroshima.jp/numata-k>



沼田公民館職員の松本さん。  
やさしい笑顔がいろいろな  
グループを支えます

